

令和元年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「学校生活」「進路支援」「特別活動」の4領域で重点項目・課題を決め、それぞれに達成目標を設けている。「特別活動」では、昨年度と同じ重点項目・課題を昨年度の反省・課題を踏まえて取り組んだが、他の領域では、継続して取り組んだ重点項目・課題もあるが、生徒の活動意欲が引き出せるよう教師側の生徒への働きかけを工夫し、その内容を一部改めたものもある。各重点課題の評価等の概要は以下のとおりである。

(具体的な取組状況や評価の詳細は <別紙 様式5> に記載)

(1) 基礎学力の向上と授業に対する取り組み方の改善(アクティブ ラーニングを含む)

生徒の学力差が拡大しており、従来の一斉授業では個々の生徒の力を伸ばすことが難しくなっている。このため、教員、生徒の両方が日々の授業を振り返り、授業に対する取り組み方を改善するようにしたいと考えた。また、生徒から教員に対する授業の評価を把握するとともに、生徒自身が自己の授業への取り組み方を評価し、振り返らせるようにした。

商業科では、多くの生徒が自らの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには商業科目の基礎をしっかり身につけた上で、自らの力を向上させていく必要があるなど検定取得は、学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。授業では、常に効果的な指導を模索し、工夫していくことが求められる。

(2) 規範意識の向上と規則正しい学校生活の確立

スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見受けられる。携帯電話やスマートフォンの平日の使用時間については、3時間以上の者が40.9%と良くない調査結果となった。この結果については保護者会での面談に利用し、家庭での協力を得ながら指導する体制を整えた。携帯電話の違反については、昨年度よりも減少したが、違反した生徒には、保護者の協力を得ながら本人の反省を促した。また、1年生を対象に情報モラル教室を実施し、ルールの遵守とマナーアップに努めた。今後も、全校集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努めるなど指導の充実を図るとともに、生徒が主体的にネットルールを定め、啓発ポスターを作成するなどにより規範意識を高めていく必要がある。

(3) 進路意識の向上と進路目標の早期設定

進路支援プログラムの事前・事後学習及び考査後の進路学習を充実させ、年間を通じて連続的・継続的な進路研究の場を設け、進路意識の高揚を図った。また、新テストに対する情報提供と長期の目標を持たせるため、ポートフォリオを活用して自己の活動内容を記録させた。生徒の能力や意欲を正確に把握し、進路目標の実現に向けて取り組んだ結果、取組満足度は全体としては、「ほぼ達成」できた。次年度へ向けて、進路の取り組みが進路目標の達成に生かせるよう事前、事後の指導を工夫する必要がある。

(4) 特別活動に対する主体的参加

各活動に全校生徒が意欲的に取り組み、集団活動や体験活動を通して豊かな学校生活を築きながら連帯意識を育むことができた。特に体育大会や球技大会では、生徒会執行部や団役員、学年を越えてまとまった工夫が見られ様々な場面で生徒の自主的な活動を見ることができた。また、部活動では、各部の実態に応じた目標を設定し、文化部および運動部とも効率的な活動を実践することができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 生徒が生涯にわたって継続的に学び続ける基礎作りをするために教師の専門性を高め、各教科で主体的・対話的で深い学びを推進する授業づくりを工夫する必要がある。商業科については、1級3種目以上の合格者が14名と目標を達成することができた。今後とも粘り強く指導を行い、上級の資格取得に向かってチャレンジしようとする意欲を持たせたい。

(2) SNSの利用に関しては、ネット依存チェックリストを定期的実施し、生活習慣の改善や自己管理について注意喚起するとともに、生徒自らが作成したルールを多くの人に周知して規範意識を高める必要がある。

(3) 進路意識を醸成する行事や情報提供に努めるとともに、面接を密に行って個々に応じた指導を行う必要がある。

(4) 学校行事の充実に向けて、生徒の視点を取り入れ、より多くの生徒が主体的に関わる活動の機会を設ける必要がある。

重点項目	学習習慣の定着と基礎学力の伸長	
重点課題	基礎学力の向上と授業に対する取り組み方の改善(アクティブラーニングを含む) 検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力差が大きくなってきており、全ての生徒の力を伸ばす授業づくりが難しくなっている。そこで「基礎学力の向上と授業に対する取り組み方の改善(アクティブラーニングを含む)」という重点課題を立て、教員、生徒が日々の授業を振り返り、授業に対する取り組み方を改善する。教員に対して授業に関するアンケートを年に2回(7月と12月)に行い、自己評価、改善を進める。同じ時期に生徒に対してもアンケートを行い、生徒からの評価を得るとともに、生徒自身も自分の取り組み方を評価し、振り返りの機会とする。 商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。 	
達成目標	① 教員への「主体的・対話的で深い学び」を推進するアンケートで 3以上の割合 80%以上 評価 評価基準 4 十分達成。 3 まあまあ達成。 2 あまり達成できず。 1 ほとんど達成できず。	③ 商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、 3種目以上で1級を取得した生徒数 10人以上(卒業年度) (1)簿記 (6)珠算 (2)ビジネス文書 (7)電卓 (3)ビジネ情報 (8)英語 (4)プログラミング (9)会計実務 (5)商業経済
	② 生徒への「授業」に関するアンケートで 3以上の割合 85%以上 ① 授業内容・説明の理解度 ② 授業のスピード ③ 説明の言葉や声量 ④ 授業内容への興味・関心 ⑤ 思考力・判断力・表現力を高める活動 ⑥ 主体的・対話的な学び⑦ 質問への説明 ⑧ 課題の質や分量⑨ 授業の開始終了時刻 ⑩ 生徒への指導 評価 評価基準 4 とてもそう思う。大変評価。 3 だいたいそうしている。ほぼ評価。 2 していないことがしばしば。あまり評価できず。 1 いつもそうしていない。全く評価できず。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 早い時期に、生徒、教員に対してアンケートの内容を知らせることで、日頃から向上を目指すポイントを意識して授業に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝や放課後の補習授業を実施する。 商業関連部活動を充実させる。 3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。
達成度	① 教員へのアンケート結果 全回答中の3以上の割合： 72.3% ② 生徒へのアンケート結果 3以上の割合： 89.0%	③ 全商主催検定1級3種目以上合格者 14名 (昨年同時期12名)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 7月にアンケート用紙を見てもらい、各教員が「主体的・対話的で深い学び」を推進するアンケートから取り組み項目を選んで授業に取り組めるようにした。また各教員が、生徒が回答する項目を知った上で、授業ができるようにした。 互見授業週間においては、自分の教科だけでなく他教科の授業を参観してほしい旨伝えた。 他校から届く研究授業の案内は、校内掲示板でできるだけ伝えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業科教員の連絡を密にして個々の生徒の弱点が克服できるように資格・検定取得に向けて、各授業や朝・放課後等の補習や質問教室を実施した。
評 価	① B ② A	③ A
学校関係者の意見	教員向けアンケートには、新学習指導要領で求められている内容が、具体的な21の取り組み項目として示されており、道しるべとなっていることに感心した。	成果のあった取り組みについての質問に対し、朝学習にて全商ビジネス文書実務検定に向けての取り組みを報告。
次年度へ向けての課題	教員向けアンケートの評価項目について十分話し合い、項目を絞り込めるとよい。	生徒は2月2日の検定まで粘り強く取り組み、1級3種目以上合格所得者が14名と目標を達成することができた。今年度は5種目3名4種目7名と頑張った生徒がいた。2種目13名の生徒の奮起を促したい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見られる。 ・携帯電話の違反数が平成29年度は延べ32回、であったのに対して、平成30年度は延べ61回と急増した。また、ネットパトロールからの報告で指導した生徒は、平成29年度は、無かったのに対して、平成30年度は10名と急増した。 ・携帯電話やパソコンに関するアンケート結果より、携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用している生徒は、平成29年度46.2%、平成30年度28.9%となり、長時間使用が、生活のリズムを崩し、家庭学習時間の確保の妨げになっている。 ・昨年度同様に生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、働きかけたが、規範意識の低い生徒も多い状況である。
達成目標	<p>① 携帯電話の違反数（ルール違反・ネットパトロールによる指導）の延べ指導回数 年間のべ30回以下</p> <p>② 携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用率 30%以下</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話で違反した生徒には、携帯電話を預かり、保護者の協力を得ながら、違反者本人に反省を促すと共に、使用に関してのルール、マナーの意識の向上を図る。 ・イレブンセブン運動を積極的に推進し、携帯電話やパソコンに関するアンケートを年間2回実施で実態を把握し、夜11時以降の使用を控えさせ、ネット依存にならないよう指導を行う。 ・情報モラルやセキュリティの意識の向上を図るために、授業だけでなく学習する機会を増やすと同時に教職員も携帯電話に関する知識を深める機会を作り、生徒への指導を充実させる。 ・家庭でのルールの設定やスマートフォンの使用について話し合う機会を持つ等、PTA総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。 ・生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作る等指導の充実を図る。
達 成 度	<p>① 携帯電話の違反数の延べ指導回数 27回</p> <p>② 携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用率 40.9%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話やパソコンに関するアンケート調査を全校生徒対象に年間2回実施した。 ・ネット依存のチェックリストを全校生徒対象に年間2回実施し、結果については、保護者会で面談の際に利用した。 ・7月に1年生を対象として、外部講師による情報モラル教室の中で携帯電話のルール、マナーアップ、ネットトラブルについて指導を受け、啓発する機会を設けた。 ・生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、生徒自らネットとの関わりについて考え、アンケート調査や啓発ポスター作成等で意識の高揚をはかった。 ・1年普通科「社会と情報」の授業で「情報通信の安心安全な利用のための標語」マルチメディア振興センター主催に全員で応募し、意識の高揚をはかった。 ・生徒自ら3年商業科「課題研究」の授業で携帯電話の不正使用の防止について、調査研究を実施した。
評 価	<p>① 携帯電話の違反数の延べ指導回数 A</p> <p>② 携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用率 D</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の作ったルールの意識付けについて、関係者を多く作り周知した方が良い。 ・使用時間だけでなく、使用目的も把握し、使用内容を精査した上で引き続き粘り強く指導してほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの利用について、身近な事例を提示し、ネットの危険性や正しい使用法を指導する。 ・ネット依存のチェックリストを定期的実施し、生活習慣の改善や自己管理について、注意喚起する。 ・ネットトラブル、ネット依存の問題では、生徒主体の活動する機会を増やし、生徒自身で考え注意できる環境を作るなど指導の充実をはかり、規範意識をより高めていきたい。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の早期設定	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の進路選択とその実現のために本校独自の様々な進路支援プログラムを行っているが、各プログラムと自己の進路を積極的につなげようとする姿勢が足りなくなっている。 ・早期に具体的な進路目標が決まらず、進路の目標実現に向けての学習意欲に結びついていない。また、受験に向けた学習への取りかかりが遅い生徒が多い。 	
達成目標	① 1・2年生：ポートフォリオに活かすことができるような、オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会などへの参加回数 年2回以上	② 3年生：2月中旬までの進路内定率 進学 90%以上 就職 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進路支援プログラムの事前・事後の進路学習を充実させ、進路研究につなげ、進路意識の高揚を図る。 ・新テストに対する情報を提供し、長期の目標を持たせると共に、ポートフォリオを活用して自己の活動内容を記録させていく。 ・オープンキャンパスや学校見学会の情報を提供し、休業中の課題等にするなどして参加を促す。校外研修会についても、必要に応じて声かけを行う。 <p>（支援プログラム） 進路集会・大学等出張講義・P T A 自前講座・進路学習・進路講話・大学訪問・O B と語る会・卒業生と語る会・インターンシップ等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習内容や意欲などの実態を正確に把握することにより、進路目標の実現に向けた適切な支援を行う。 ・個々の生徒の学力や志望校の出題傾向を踏まえて、集団指導（補習・進路集会・進路情報冊子の活用）や全職員による個別指導（教科添削・面接・小論文）の充実を図る。 ・入試の過去問を採り入れて実力判断をしたり、過年度生の成績と進路の相関関係を照らし合わせるなどして、学習指導、進路指導を効果的に行う。 ・本校の進路支援プログラムと個別面談を効果的に利用し、志望校・志望学科を早期に決定する。 <p>（支援プログラム） 進路集会・進路講話・就職ガイダンス等</p>
達成度	1. 7回 (2/14 現在)	進学 85% 就職 100% (2/14 現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間(1年) ・総合的な学習の時間(2年) ・進路集会(4・9月) ・進路希望調査(4・9・1月) ・出張講義(7月) ・大学見学(2年5・11月) ・「進路の設計」(2年) ・「進路の手引」(1年) ・P T A 自前講座(11月) ・進路内定者と語る会(2・3月) ・オープンキャンパスや進路情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路集会(4・9月) ・進路講話(7月) ・進路希望調査(4・9月) ・O B と語る会(3年就職希望者6月) ・校内模試、校外模試 ・「進路資料集」 ・オープンキャンパスや進路情報の提供 ・プロジェクトI(8月～) 就職・入試指導
評 価	B	進学： B 就職： A
学校関係者の意見	・ポートフォリオとはどのようなものか質問があり、回答した。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事の活用、オープンキャンパスや学校説明会などの上級学校に関する情報提供に努め、進路意識を醸成する。 ・卒業後の姿を見据え、やるべきことを自覚し実行できるように支援する。 ・面接を密に行い、その持ち方や回数等を工夫するなど、個々の状況に適した指導を進める。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動（学校行事を通して自主的な態度の育成）
重点課題	特別活動に対する主体的参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事である体育大会や球技大会では、生徒達は意欲的に取り組む姿が見られ、これらの集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築きながら自主性や連帯意識を育んでいる。 ・本校部活動数は運動部13、文化部10あり、部活動加入率は運動部約63%、文化部約33%、全体で約96%と、多くの生徒が部活動に参加している。
達成目標	<p>① 学校行事（体育大会、球技大会）に対する充実度 4段階評価による3以上が80%以上</p> <p>② 部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 4段階評価による3以上が70%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を充実させ、代議員会等の適宜開催するなどして、生徒の視点から参画させることで、より多くの生徒が主体的に関われる活動の機会を設ける。 ・部活動登録後、全体計画・活動内容等を部員と話し合い、個人や集団の実態に応じた目標を持たせる。 ・学校行事や高体連並びに高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。
達成度	<p>① 学校行事（体育大会）についてのアンケート結果 評価3以上 応援合戦（98.7%）、競技種目（94.3%） 生徒会種目（94.1%）、応援練習時間（82.5%） 総合評価（94.7%）</p> <p>（球技大会）についてのアンケート結果 評価3以上 球技大会は楽しかった（充実度）（80.5%） 他競技を応援する時間（71.8%） 競技の試合時間（84.4%） ルール内容（84.8%）</p> <p>② 部活動についてのアンケート結果（1・2年生、3年生の順） 運動部 評価3以上 活動計画や活動内容（83.7%、91.3%） 活動時間や休日（83.2%、86.3%） 各種大会または各種発表会（42.1%、72.5%） 文化部 評価3以上 活動計画や活動内容（85.5%、91.2%） 活動時間や休日（94.0%、92.6%） 各種大会または各種発表会（80.0%、86.8%）</p>
具体的な取組状況	<p>○学校行事 体育大会や球技大会においては生徒会執行部を中心に代議員会や団役員打ち合わせを開催する中で、テーマや種目内容、ルール等などの検討を積み重ね、生徒が主体的に計画・運営・参加する取り組みを行うことができた。</p> <p>○部活動 ホッケー部においてはインターハイ女子2年連続優勝、男子5位、国体女子4位と活躍した。吹奏楽部は第47回富山県吹奏楽コンクールにて金賞。新聞部は3年連続全国高等学校総合文化祭に出場。珠算経理部は全日本電卓競技大会並びに北信越商業実技競技会に出場した。富山県青少年美術展において美術部は彫刻部門にて銅賞、工芸部門にて佳作・入選した。また書道部は書道部門にて入選した。その他の部活動についても各種大会や各種発表会に出場・参加して活躍することができた。</p>
評 価	① A ② A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・女子ホッケー部の活躍が、他の生徒への影響が大きく、今後も期待している。 ・外部指導員の制度を今後も継続していくことが、部活動全体の活性化につながる。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部会並びに代議員会を定期的に行い、生徒会主体の話し合いによって意見をまとめさせたり、考えを深めさせたりして、よりよい学校生活を築き、自主的な態度を図る。 ・アンケート等を活用して意見を集約するなどして生徒の視点により参画させることで、より多くの生徒が体験的、主体的に関われる場を設ける。 ・部活動については各部の実態に応じた目標の設定や効率的な活動を実践するために、顧問と生徒の話し合いを定期的に行う。 ・指導者や生徒対象とする各種研修会等の情報を発信し、積極的な参加を促す。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）